

こんなことやったよ

アーク（ARC）では、2015年に2回イベントを行いました。10月25日に足羽川の川岸でバーベキューをしました。仲間で力を合わせ食材を買ったり、場所を手配したりいろんなところで宣伝をしたり、もめたり（笑）、当日多少風が吹いていましたが、晴れてくれて、そして、たくさんの方に来ていただいて大成功しました。アークを支援する会の方、施設長、アークの通所者、家族の方、専門職の方、犬2匹（笑）ふだん交流の少ない方たちが一同に集まりました。たわいもない話で皆さんが盛り上がっていて、とても不思議な場でありとても楽しい時間でした。このバーベキューで依存症という病気に対してこんな沢山の方が味方にいるんだなと感じました。もちろんお酒はありません。

そして12月19日に福井アークにてクリスマスパーティーをしました。これも仲間でいろんな案を考え、買い出し、飾りつけをして当日はバーベキューより多くの方が足を運んでくださいました。支援する会の方、家族の方がたくさん来ていただいて、大成功でした。バーベキューに来られなかった方もたくさんいた為、新しい交流がたくさんありました。しつこいですがお酒はありません。アークではこういうイベントをどんどんやっっていこうと考えています。



卒業生の声

アークに通い始めて四ヶ月を過ぎたころ、施設長から「卒業できますよ。」と言われた時は確かに強迫的にギャンブルに通っていた私はいませんでした。何故行きたいと思わないのだろう…と不思議でした。現在も回復している自分を感じています。感謝しかありません。心に自由があるというのはなんて素晴らしい事でしょう。ミーティングには卒業してからも週に一回程は参加し、仲間の話を聞いたり、自分の心の状態を言葉にしていたりします。この事を繰り返しているだけで、安心していられます。ミーティングと病院への通院と、認知行動療法を勉強して知識も得られる。アークは、素晴らしいバックアップがある心強い頼もしい存在だと思います。これからも「今日だけ」を心にとめ一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

エル

通所者の声

アークに来て

良かった

二十歳頃からの十年余り、アルコールを浴び続けて知ったこと。それはアルコールが死に至る飲物であり、アルコール依存症は自他を死に至らしめる病だということでした。内心ではそう気付きながら、自他を誤魔化し、嘘をついていた自身がいたことを、ミーティングに出続けて素面の日々を過ごす中ではっきりと気付きました。

この頃は、アルコール依存症になる以前に好きだった音楽鑑賞や読書に熱が入り、暴飲暴食で肥えた体がひと回り細くなりました。そして、家族や友人、アークの仲間を支えられていることに、心から感謝出来るようになりました。

アルコールに取り上げられた心やものを一つ一つ積み重ねていく日々は決して平坦ではありません。しかし、時折感じる強い罪悪感や焦燥感を誤魔化すことなく受け容れて、アルコール漬けの頭では感じる事が出来なかった感謝や友情をこれからも深めていけることを、素面の頭と心と魂で祈っています。 たかし

私が福井アークを知ったのは留置場の中でした。薬物事犯で逮捕され、担当して頂いた国選弁護士に紹介して頂きました。実を言えば当初は逮捕されてもなお、薬物依存症の自覚は私にはありませんでした。当時は少しでも反省していることを証明して量刑を軽くしたいという気持ちが正直ありました。それに加えて、逮捕されて周囲の人に多くの迷惑をかけてしまい、心から反省と後悔をしていたので「本気でクスリを止めたい」という思いも強く、ワラをもつかむ気持ちで保釈後に初めて福井アークにいきました。

実際に通ってみると、「本気でクスリを止めたい」という思いさえあれば、どんな事情でそう思ったにしろ、それを受け止めてくれる懐の深さが、この施設にはあったのです。自分の恥ずかしい過去も人に話すのを躊躇するような話も全て受け止めて、私が直面している問題に、ここの仲間たちは向き合ってくださいました。そんな環境の中で私自身が薬物依存症だということに向き合えるようになるには時間がかかりませんでした。薬物依存症の自覚を持った私は現在、執行猶予中の身ではありますが、福井アークに通う毎日です。ここには自分ひとりでは絶対に勝てない「依存症」という敵に共に戦ってくれる仲間がいます。ここには依存症の自分を嫌いにならなくていい何かがありました。いずれ福井アークの回復プログラムを終了できた後には、依存症に関わらず、困っている人の手助けが出来る仕事に就ければいいなと思っています。 T



編集者…たくろうと仲間たち

2016. 1. 27 福井ARC

☎ 0776-43-1709